

過去の報告とも一致していた。

今後 FLAIR で髄液の高信号を呈した症例に対し、器質的疾患以外に、高酸素投与によるアーチファクトを考慮する必要性を示した3症例であった。

## 7 ガドリニウム造影剤を用いて内頸動脈ステント留置術を行ったヨード造影剤過敏症患者の1例

鈴木 亮・森田幸太郎・本山 浩

阿部 博史・高野 弘基\*

立川総合病院循環器・脳血管センター

脳神経外科

同 神経内科\*

【はじめに】我々はヨード造影剤過敏をもつ内頸動脈狭窄患者に対して、ガドリニウム (Gd) 造影剤を用いて脳血管内治療を行い良好な結果を得た1症例を経験したので報告する。

症例は75歳、男性。心臓弁膜症の既往があり、以前の心臓カテーテル検査でヨード造影剤使用による重篤な副作用が認められていた。平成22年初旬、心不全が悪化し心臓手術が予定されたが、術前評価で左内頸動脈高度狭窄が認められ同部位の脳血管内治療を優先する方針とされた。既往から治療にはGd造影剤が選択された。十分な術前計画といくつかの工夫により良好な造影効果を得て治療は完遂され、術後合併症なく独歩退院した。

【結論】ヨード造影剤過敏症患者に対する脳血管内治療にGd造影剤を用いることは有用な選択肢となりうる。一方で保険適用外であり、腎不全患者での重篤な副作用が報告されるなどその使用には慎重な検討が必要と思われた。

## II. 特別講演

### 1 腹部の画像診断の極意

横浜旭中央総合病院放射線科部長

佐藤 秀一

## 2 脳血管内治療のための画像診断のキーポイント：より効果的な治療のために

大分大学医学部附属病院

放射線部 准教授

清末 一路

## 第70回新潟癌治療研究会

日時 平成22年7月24日(土)

午後12時30分～

会場 朱鷺メッセ

新潟コンベンションセンター

中会議室301

## I. 一般演題

### 1 放射線誘発と考えられた下顎骨悪性線維性組織球腫の1例

小山 貴寛・星名 秀行\*・児玉 泰光

小野 和宏\*\*・高木 律男

林 孝文\*\*\*・朔 敬\*\*\*\*

新潟大学大学院医歯学総合研究科

顎顔面口腔外科学分野

新潟大学医歯学総合病院インプラ

ント治療部\*

新潟大学大学院医歯学総合研究科

口腔保健学分野\*\*

同 顎顔面放射線学分野\*\*\*

同 口腔病理学分野\*\*\*\*

放射線治療で生じた下顎骨骨髓炎に続発したと推測される悪性線維性組織球腫 (MFH) の1例を経験したのでその概要を報告する。患者：44歳、女性。主訴：右側下顎角部の腫脹。現病歴：1989年25歳時右側頸部悪性リンパ腫。放射線・化学療法で寛解し経過観察終了。2008年8月に右